



オピニオン
 進化からシニアを考える(6/9)
 SCE・Net 中安 一雄

O-44

発行日：
 2026年3月18日

本稿は「進化からシニアを考える(5/9)」に続くものです。

7) 目指す社会 LPGs

今後どのような社会を作ればよいのだろうか。これについては国連が SDGs としてまとめている。SDGs は ISO9000、ISO14000、企業の社会的責任の議論の先として「どのような社会にすべきか」の議論から、2015 年に国連で制定された。10 年を経過した今、見直すと、そこには目標と手段の混同、成長信仰に基づいている、いのちへの配慮が弱い、などの問題がある。そこで、いのちと平和の目標を LPGs (Life & Peace Goals) として、その実現を目指す社会を次のように見直したい。時代とともにいろいろなことが変化する。だから、決めたことは適宜見直すのが本来のあり方である。

いのちと平和の目標 (Life & Peace Goals : LPGs)

1. 平和な社会 (戦争・貧困・格差・差別・偏見・不平等・難民・犯罪のない社会、異文化や人権を尊重する社会、平和を望む社会、いのちを大切にす
る社会、対話ができる社会、正しい情報を伝える社会)
2. 住み続けられる社会 (資源枯渇、エネルギー問題、環境破壊、食糧・水問題、
住環境、人口(少子化、高齢化)、教育問題、医療・衛生・福祉・心の健康
問題、安定雇用、安全、弱者救済と相互扶助の社会)
3. 災害や事故に備える社会 (地震、津波、火山、火災、水害、突風・竜巻、土砂
崩れ、干ばつ、感染症、インフラ・設備の事故、設備老朽化への備え、
訓練・回復力を持つ社会)

8) LPGs とその実現

8)-1 精神進化における調和進化

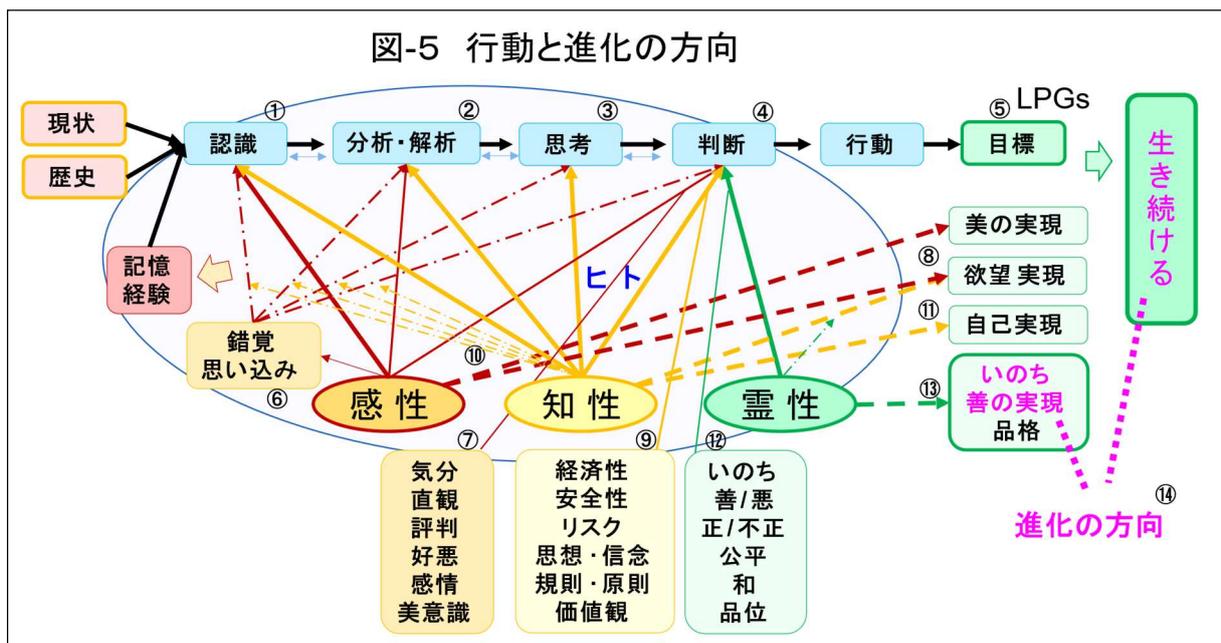
精神進化の過程において、目に見えないものを区分すると感性・知性・霊性があることを先に見た(3)-2、図-2)。それらの調和進化を LPGs 実現の観点から考えてみたい。

表-5 行動への過程

過程	内容
1. 情報収集	情報を認識する、集める
2. 分析・解析	情報を吟味し、その意味を考える
3. 思索	情報の意味から、これからの行動案を考える
4. 判断	行動案を評価・判断し、実行案を決める 実行結果を監視し情報収集へフィードバック
5. 実行	実行案を実施する

人が行動する過程はどのようになっており、精神進化の感性・知性・霊性とどのように関係しているのだろうか。行動過程を表-5のように区分し、図示してみた(図-5)。

人は現状と歴史および自らの記憶や経験を認識①し、それらの情報を分析・解析②して思考③を深める。そして、思考の結果を判断④して行動へ移す。行動によって目標(LPGs)⑤の実現を目指す(図-5、上段)。人の中で行われるこれらの過程には感性・知性・霊性が関与している(図-5、下段)。感性は主に認識に関係し、分析や判断に影響を与えるが、又、錯覚・思い込み⑥を経由しても影響を与える。それらの要素としては気分・直観・好悪・感情・美意識など⑦があり、感性は美や欲望の実現⑧に向かって働く。知性は分析・思考・合理的判断を担い、経済性・安全性・リスク・思想・価値観など⑨として関わるが、錯覚や思い込みをチェック⑩するのも知性の働きである。知性の働きは自己や欲望の実現⑪に向かっていてる。霊性は善悪・正不正・公平・義務・調和・品位といった根源的価値に関わるもの⑫で、最終的な方向性を定める判断軸となる。これはいのちや善、品格の実現⑬に向かっていてる。この一連の過程は、進化の方向⑭(いのちの継続、善の実現)に向って行われる(図-5)。



行動のための判断基準には表-6のようなことが考えられ、調和進化の観点から、感性・知性・霊性の調和が大切になる。進化は、いのちが続いていくことを目指しているのであるから、これらのうち霊性による行動の最終判断が最重要となる。行動が調和的に行なわれていれば問題はないが、どれかの項目が行き過ぎてバランスを崩すと、不協和が起こり LPGs を阻害する。

そこで感性・知性・霊性の働きが調和的に行われているかのチェックが大切になる。このとき 6)-7) でみたように「正解は分からない」という認識が重要になる。行動の各

過程については表-7のような課題が考えられるが、現実の社会において、感性・知性・霊性の働きはいのちを生き続けるLPGsの実現に向けて的確に機能しているだろうか。

表-6 行動に際しての判断基準の例

区 分	判断基準の例
1. 感性関係(感じる項)	気分、直観、評判、好悪、感情、美しさ、快さ、面白さ、楽しさ、心地よさ、後悔するか、納得できるか
2. 知性関係(考える項)	
2-1 知識関係	経済性(損得、有用性、効率)、安全性、リスク、認識、タイミング・短期/長期
2-2 思想・概念関係	思想・信念、規則・原則、権利、価値観、一貫性
3. 霊性関係(生きる項)	いのち、善/悪、正/不正、公平、義務、迷惑、調和、品位

表-7 行動過程での課題

過 程	課 題 の 例
1. 情報収集	情報の偏り(一部分しか見えない。見たい情報に偏る、成功体験) 情報過多による混乱、フェイク情報、思考停止・無関心、好奇心
2. 分析・解析	先入観、因果関係の錯覚、単純化、切り捨て、目標との整合性
3. 思索	発想の固定、自己思想への拘り、リスク配慮、目標との整合性
4. 判断	感情的判断、過剰リスク回避、価値観、短期長期の分離、複数案
5. 実行	怠慢、小規模スタート、無意識の行動、結果の監視

8)-2 目指すべき社会の実現と生き方の見直し(シニアの役割)

LPGsの実現には、日本人の生き方に学ぶことが有益だが、それだけでは十分ではない。知性の成果である資本主義・功利主義、合理主義、自由主義、個人主義、民主主義などの現代思想はいずれも価値ある思想で、これにより現代社会は機能してきた。しかし、現代社会を進化の原点である「いのち」の視点で見ると、疑念が生じる。

現在、国会議員の9割(衆議院議員では99%)が軍備増強に賛成であり(2026.2.8選挙各党方針より)、日本では軍備を増強する軍国主義が進んでいるのが分かる。「いのち」の視点で見るとき、これで良いのか疑念が生じる。軍国主義は「軍隊で国を守る」考え方であり、軍事行動では人の「いのち」が失われる。平和主義は「平和的手段で国を守る」考え方であり、「いのち」を大切にする。軍隊は、世界の現実には即して戦争抑制のために設置したものであって、それは平和な社会が実現する時までの暫定的な「橋渡し」が本来の役割である。無くてすませられれば無い方が良いものである。しかし現代、暫定的であったはずのものが恒久的なものとして正当化されている。そ

れが軍国主義である。短期的課題だけを考え、長期的展望との整合が欠落しているのである。登山では足元に注意すると同時に、頂上へのルートの確認が欠かせない。足元の木の根に注意していなければ、ねん挫や転落などの危険がある。頂上へのルートを確認していなければ、道に迷い頂上へ行けない怖れがある。足元を見ているだけでは安全な登山は完遂できない。両方を忘れてはいけないのである。特に、目指す姿を忘れてはいけない。多くの問題が複雑になる原因の一つに、目先のことに目を奪われ、目指す姿、本来の姿を忘れることがあるように思われる。いのちの視点を忘れ、戦争による死や戦後にも残る人格破壊等の心身の深い傷に目を向けず、平和的解決の努力が著しく不足している。また、好き嫌いや感情で判断⑦し、いのちを大切に作る霊性による判断⑩が欠如している。感性・知性・霊性のバランスから逸脱し、進化の方向⑭(いのち)を忘れていたのである(図-5 参照)。

LPGs の合意は可能だろうが、その実現にはいろいろな課題がある。社会には多様性があり、思想・宗教・体制・民族・文化などの違いからくる意見の調整が難しい。平和を望みながら戦争を続ける矛盾、温暖化防止を言いながら生活を変えられない矛盾は「人の視点」だけでは乗り越えられない。現代思想には限界がある。解決の鍵は「進化の視点」にある。進化の最先端は、精神進化すなわち人間が持つ「目に見えないもの」(人を超えた善なる存在)に気付く能力にある。進化の精神進化や調和進化を考慮し、ここから LPGs 実現の施策を考えると、先に述べたように社会活動を「神事として行う」ことが挙げられる。すなわち、「『人を超えた視点』で考え行動する」ことである。行動の際に思想や技術などの知性だけでなく、美と品格で代表される感性と霊性を動員するのである。

「人を超えた存在」=神とすると神学的議論を誘発して問題が複雑化する。また、無神論の人もいる。そこで日本人のあいまいさを残す知恵を活用し、「人を超えた存在」はあくまで「自分と相手を超えた視点」として捉え、そのままにしておく。呼称が必要なら「いのち」とすると良い。人を超えた「いのち」の視点で考え行動することは「人類みな兄弟」という考え方に結び付く。ジョン・レノンがイマジンの中で「・・・ただ空があるだけ・・・国はない・・・宗教もない・・・人はみんな兄弟・・・」と歌い、ベートーヴェンが第九交響曲においてシラーの詩を使い「神のやさしいみこころの中で、すべての人間が兄弟になる」と歌った思いに通じる。

進化には進化同源ということがある。人類の祖先は遡れば同じ祖先に行き着く。進化から見れば人類は本来兄弟なのである。さらに原始生物を考慮すれば、生き物は皆兄弟となる。このような視点に立つことができれば、「いのち」の大切さが分かり、異なる多様な意見は、対立ではなく最善解を得るための資源となり、共通目標である平和へ向かっての議論が進められるのではないだろうか。昔流の議論(6)-4 参照)を進

化させられないだろうか。それが精神進化段階にある人類の生き方ではなかろうか。

戦争で殺される人には家族や友人がいる。自分たちの仲間の死を考えるだけでなく、相手にも家族や友人がある、その死も考えねばならない。相手も人であり兄弟である。人類を絶滅から救うには「いのち」の視点が必要である。

(つづく)